

空の「」で囲まれたセリフの収録をお願いします
音声ファイルの最初にはお名前をお願いします。

「シーン1…出会い」

さて、新入りが挨拶を始めて早五分……

ふるふる震えたまま一言も話さない。

まあ、俺たちは筋金入りのダメ人間の集まり、こういう奴も偶にいる。

明弘「まあ、そんなに緊張しなくてもいいぜ。

俺たちもお前と同じようなもんだから」

言ってて悲しくなる。

咲夜「私まで一緒にするなっ、ねえアンタ名前くらい名乗りなさいよ」

咲夜「死ぬまでは覚えておいてあげるからっ」

空「ぼっ……ぼくは……」

空「空（そら）」

咲夜「空……いい名前じゃない、天罰機で空から降って来る

クソと戦うにはピッタリの名前ね」

夜が嫌味全開で空をイジる。

空「えっ……あっ……ありがとう……そんな事言われたの……」

はじめて……だから……」

空が顔を真っ赤にした……天然かっ!?

咲夜「ちよっ……別に……善意で言った訳じゃないんだからねっ、

勘違いしないでよねっ!」

「シーン2…戦闘」

空「よくも咲夜を……………」

天帝「空…………やはり私を倒すのは貴方なんですわね。」

空「何で…………何で咲夜を……………」

天帝「空、よく聞きなさい。アスラはクシャトリアを…………人間を殺します。」

天帝「しかし、それがサンサーラの理（ことわり）」

空「理…………そんなバカな事……………」

天帝「咲夜がクシャトリアになった時点で死ぬ運命だったのです。」

空「そんなつ、そんなバカな！」

天帝「選ばれし者として戦い死んでいった…………明弘さんも同じです。」

バイラヴィのレーザークナイフが天帝を切り裂く。

天帝「これで貴方は卒業。」

天帝「ブラーフマナ『空』…………いえ、天帝

『空』…………あなたにサンサーラの祝福があらん事を…………」

天帝「セラ、二〇〇年…………意外と短かったですね、さようならセラ…………」

セラ「えーっと、あすみ先輩。さよならです。」

天帝「貴方の本当の戦いはこれから…………ですよ。」

セラ「そうなんですか？頑張ります。」

天帝は塵のように消えた。

空「うああああああああ」

セラ「ん？誰でしたっけ…………レトリバー小隊の人。大丈夫ですか？」

空「そうか…………そうだったんだ…………セラ君は…………」

僕は…………全て解ったよ…………」

空「バイラヴィ、補給を…………セラ、僕に着いて来て」

セラ「ラジャーです。レトリバー小隊の隊長!？」

空「ああっ、ぶっ殺してやるよクソ野郎ども……」

セラ「ん？なんだか……懐かしい感じが……！！？」

さわやかな風が吹いていた。

「シーン3…恋人」

咲夜「ねえ、空……私達も……死ぬのかな？」

空「……………」

空は答えない、いや答えられない。

成層圏をアスラに奪われ地上に落とされた人類。

高みの見物を決め込んでいた大人達、私達を選んだ生徒達……

全ての人類が青ざめている。

むしろ死と隣り合わせの日常を送って来たクシャトリアの方が気楽なのかも、

空「僕は……生きるよ、きっと……」

咲夜「そうね、空は凄いよね。明弘にも引けを取らない……」

空「生き続けて……咲夜を守り続けるよ……」

咲夜「空……」

私は何故かとても切ない気持ちになり……空を抱きしめる。

空「咲夜……」

咲夜「空……キスしていい？」

空「えっうん……でも後で……なぐらないでね」

咲夜「なっ殴らないわよっ、あれは空が不意打ちするから……」

耳を劈くようなエマーゼンシーアラートが敵襲を知らせ、

恋人たちの時間を終わらせる。

私は空を抱きしめキスをした。

咲夜「空、明日……もう一度しようね。」

空「うん、咲夜……約束だよ」

私達は手を繋ぎ、天罰機へと走って行った。

